

2023 年度学校評価

りんどう幼稚園

1. 教育方針

(1)りんどう幼稚園の目指す子ども像

- ・ 遊びを見つけつくり出すことを楽しみにする子ども
- ・ 心身共に健康で、明るく、たくましい子ども
- ・ 心情豊かで、思いやりのある子ども

(2)2023 年度の目標

○多様性を尊重する保育を考える

幼稚園教育要領にも記載があるように、これからの幼稚園には、1人1人の幼児が、将来、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生をきり拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにするための基礎を培うことが求められる。これまでも1人1人の多様性を尊重した保育を心掛けてきたが、更に1人ひとりに応じた関わりができるよう配慮していきたい。

・ インクルーシブ保育・教育

保育の中には多様な子どもたちがいることが当たり前で、全員を包括して、1人ひとりの在り方、1人ひとりの学びを保障することがインクルーシブ保育・教育であることを念頭に入れ保育を行う。

・ 子どもの人権

私たちが日頃の保育の中で、何気ない発言が子どもの気持ちを傷つけてしまうことが意外とたくさんあります。お互い人権を持った「対等な人間」であるということを意識し、保育していきたい。

○「保育の質」「保育者の質」を高められる環境づくり

・ 常に学ぼうという意識を持つ

研修に参加しやすい環境づくりを行い、職員自らが主体的に研修に参加し、自身を高めていく。園内研修にも力を入れ、学びの環境を整える。

- ・子どもに関わる全ての人の考えが尊重される対話的な職場にする
年齢や経験だけで人を評価したり、存在感を強要することなく、謙虚な気持ちで仲間と向き合い、対話を心掛ける。

2. 教職員について

(1) 教職員数及び勤続年数の分布 2024年3月1日時点

- ・教職員

園長 1名

副園長 1名

事務長 1名

教諭 18名

バス運転手 2名

非常勤教員 17名

- ・正規職員の勤続年数

勤続年数	人数
40～	1
30～39	4
20～29	1
10～19	2
5～9	5
0～4	10
合計	23

(2) 所有する免許の種別や他の資格

幼稚園教諭、保育士、子育て支援員

(3) 研修の実績及び研修制度について

- ・外部研修

1人ひとりに焦点を当てた集団作り(子どもの文化学校)
指導計画の活用～指導計画の必要性とその具体的な活用
子どもと関係性を編む(多摩保育研究会)

気になる子への保育勉強会(公益財団法人幼少年教育研究所)

造形連続講座

指導計画の必要性とその具体的な活用

5歳児クラス連続講座(子どもの文化学校)

小規模プールの衛生管理(小平保健所)

SEITOKU夏期保育大学(聖徳大学)

保育現場のより良い環境チームづくり

より良い保護者支援のために

0～2歳と楽しむ手遊び・ふれあい遊び

子どもと楽しむ「パネルシアター」

みんなでわいわい作って遊ぼう

新幼児教育セミナー

仲間との共感から広がる表現する遊びについて(子どもの文化学校)

聞きたい利きたい聴いてみたいこたえは一人ひとりの中にある(まあや学園)

保育の質向上と組織マネジメント

「思い」からはじめる保育環境(子どもの文化学校)

音楽活動を通して育てたい心とは(子どもの文化学校)

災害模擬体験セミナー

久保田雅人の工作研修会(子どもの文化学校)

・園内研修

ドキュメンテーション作成について(花原幹夫)

小学校との連携について(無藤隆)

環境について(木村歩)

インクルーシブ保育(宮崎豊)

アート研修(浅羽聡美)

上級救命講習(小平市消防署)

3. 園児について

年少クラス 3クラス

年中クラス 5クラス

年長クラス 3クラス

園児数 237名

4. 施設・整備について

(1)遊具の種類や設置状況

ブランコ、滑り台、登り棒、ジャングルジム、鉄棒、木の家、汽車の遊具

(2)安全にかかる配慮

遊具の点検を日々行い、危険な箇所があったら職員間で共有し、対策を取っている

5. 保育料等について

保 育 料	32,000 円	
バス維持費	5,000 円	利用者のみ（消費税込）
父 母 会 費	250 円	
卒園積立金	1,000 円	年長のみ（4月～1月）
給 食 費	1食 400 円	牛乳代を含む（消費税込）

6. 教育内容等について

(1)教育時間や教育内容、及び休園日

通常保育時間 8：45～13:30

休園日：土日・祝日 その他園が定めた日

(2)行事について

入園式、誕生会、みんデバ、保育参観、個人面談、内科健診、交通安全指導、造形、体操指導、春の親子遠足、歯科健診、プラネタリウム(年長)、プール、七夕まつり、夏祭り、引き渡し訓練、保護者向け講演会、運動会、秋の遠足、歩け歩け(年長)、父母会鑑賞会、作品展、クリスマス会、豆まき、発表会、卒園式

7. 預かり保育について

アットホーム 7：30～8：45

13:30～18:30

長期休暇も実施

8. 子育て支援について

2023年5月～2歳児プレ保育 おひさまクラスを開始(I期、II期)

地域に向けてにこにこクラブを開催。(園庭開放、お譲り会、カフェ、楽器で遊ぼう…)

9. 給食について

基本完全給食 1食400円 9月からは、午前保育時のアットホームでも給食提供を開始

10. 父母会について

会長、副会長、書記、会計、卒対、図書係、通信係、プレゼント係

父母会からの誕生日プレゼント、父母会鑑賞会

11. 登園・降園について

(1)通園方法

徒歩、自転車、自動車、園バス

(2)安全対策

開門時間を決め、開門時には職員が必ず付くようにしている。

門に電磁錠、防犯カメラを設置。

小平警察の防犯訓練を実施。

外部から内部が見えないように目隠しを設置。

12. 園児募集について

(1)見学会、説明会の日程

見学会は週2回ほど開催

説明会は、9月13日、10月16日に開催

インクルーシブ保育を実施

13. 学校評価の結果について

- A.十分達成されている。 B.達成されている。 C.取り組まれているが成果が十分でない
D.取り組みが不十分である。

○多様性を尊重する保育を考える

- ・ インクルーシブ保育・教育…B

職員体制を見直し、年少・年中クラスには、各クラス1名ずつ補助が入るような体制を整えた。それにより、障害の有無にかかわらず、子どもの遊びの保障を行ったり、1人ひとりへのサポートを行うことができた。

夏にはインクルーシブ保育についての職員研修を行ったり、引き続き、臨床心理士に

月2回訪問してもらい、保育者や保護者の相談に乗ってもらった。

今後の課題としては、近年、個別配慮が必要なお子さんが増えていることもあるので、臨床心理士の相談回数を増やしていき、保育者や保護者の相談をより受けられるようにし、園と家庭との連携を図っていきたい。

- ・ 子どもの人権…B

日々の保育や行事でクラス担任が子どもたちの様子を捉えて保育する姿が見られる。大人という立場から物を言うのではなく、保育者という子どもの思いを理解した立場として、子どもと対等に関わっている。

今後の課題としては、園内には、様々な職種の職員がおり、子どもたちと関わっているので、園全体で子どもの人権について学んでいきたい。

- 「保育の質」「保育者の質」を高められる環境づくり

- ・ 常に学ぼうという意識を持つ…A

今年度は、普段から保育後にも様々な研修に参加する職員が増えた。また、他園の見学にも進んでいき、日々の保育に反映されていた。園内研修も様々な講師を招いて行うことができ、引き続き職員が学べる場の提供、学びやすい風土づくりを心掛けていきたい。

- ・ 子どもに関わる全ての人の考えが尊重される対話的な職場にする…B

全職員で行うキックオフや振り返りを行い、正規職員同士だけでなく非正規職員も一緒に対話できる場を設けた。お互いの思いを聞き、徐々に深い対話ができるようになってきた。特に学年間の担任同士対話が普段からできているので、引き続き子どもについて語り合える職場をつくっていきたい。

14. 学校関係者評価

コロナが明け、通常の日常が戻ってきた中で、今まで行ってきた行事が徐々に復活する様子が見られた。2023年度は新規採用の職員が増え、今まで以上に様々な面で子どものサポートをする大人が増加した。また、2023年度から2歳児のプレ保育やにこにこクラブも始まり、地域の資源として園の役割が強化されたように感じる。今後も、長年培ってきた教育保育の知見や基盤を地域の保護者に向けて発信していくことを期待したい。